



バーゼルのクリスマス・ツリー

欧州クリスマス・マーケットの風景

欧州の各都市では、アドベント（待降節）の期間にクリスマス・マーケットが開かれます。アドベントとは、クリスマス前の4週間、キリスト誕生を祝う準備期間のことです。クリスマス・マーケットでは、大きなクリスマス・ツリーを中心に、きれいに装飾された木造のヒュッテと呼ばれる露店が所狭しと並んでいます。売られているものも多岐にわたり、民芸品やクリスマス・デコレーション用のグッズをはじめとして、台所用品や衣料品といった日用品、ソーセージ、スープなどの軽食、さらにはクリスマス・マーケットの名物である温かいワイン（グリュウ・ワイン）なども売られています。また、場所によっては、ライトアップされたメリーゴーランドやミニ観覧車も設置され、家族連れや観光客で大変にぎわいます。

クリスマス・マーケットの歴史は古く、14世紀初頭にドイツのミュンヘンもしくはドレスデンで開かれたのがはじまりと言われています。欧州では冬の間、夜が長く天気も悪い日が多いため、人々はこうしたイベントにつかの間の楽しみを見出そうとしていたのでしょう。もっとも年々、買い物のための特設広場という意味合いは薄れ、現在ではお祭りの要素が強くなっているようです。

買い物という意味では、欧州の人々の関心は専ら、クリスマス直後に、スーパーやデパートで開催される大売り出し（クリスマス・セール）にあるようです。この時期にデパートに行くと、親から買ってもらった、ディスカウントされたクリスマス・プレゼントを両手一杯に抱えてうれしそうな子供たちの姿を多数見掛けます。折からの景気後退の影響もあるのでしょうか。欧州の人々はずらく長い冬を少しでも楽しむべく、古くからさまざまな工夫を凝らしているようです。

（国際決済銀行<Bank for International Settlements>本部、バーゼル）



スイスのバーゼルで開かれたクリスマス・マーケット